

主 な 記 事

年 頭 所 感	1
技術面から見た化纖工業 ...2	
の方向	
桑属の細胞学的研究	4
さ ろ ん	6
総 会 記 事	9

千 曲 会 報

昭和35年1月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小 山 長 雄
信州大学繊維学部内
発 行 所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可

毎月1日発行

定価1部15円

振替口座 長野 6243
東京 43341

頌 春

1960年

年 頭 所 感

理 事 長 野 口 新 太 郎

ここに昭和35年の新年を迎え謹んで各位の御健康を祝します。今年は我等同窓にとっては生涯に記念されるべき年であります。我々四千に余る千曲会員が、数年に亘り熱誠を傾けて計画準備して来た、母校創立50周年記念行事はいよいよこの秋に挙行されるのであります。

母校50周年記念事業の意義及び内容については、今更再言の要もありませんが、一たびこの計画が決定されますや、全千曲会員は一斉に立って計画の完遂に挺身して来たのであります。以来既に2ヶ年、その間には幾つかの母校愛美談もあります。それ等のお蔭で今や漸く、母校50周年記念事業計画は、予定通り堂々と挙行出来る見通しが、はっきり打出されるに至りました。真に御同慶に堪えません。

即ち当初計画した各種の準備は何れも予定通り進捗し、殊に初から最も懸念された寄金募集についても、既に目標額にあと一步の域にまで到達し、目標額突破も最早目焦のうちであります。これまた当初以来今日に至る、委員諸氏の筆紙に尽し難い御苦心は言うに及ばず、更には四千会員の燃ゆるが如き母校愛の発露によるものと、只管感謝感激している次第であります。

尚又当初から予想された、地元官民を中心に、更に全国関係業界を打って一合とした、記念事業協賛会の設立も、着々

進捗し、近く上田市長を会長として力強く発足の予定であります。そしてこの会も、千曲会と表裏の關係に於て母校の記念祝賀事業に協力するのであります。

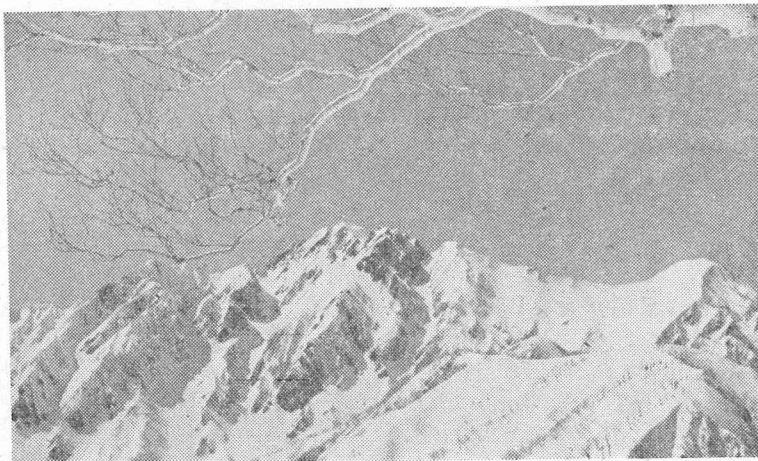
このように母校50周年記念事業計画は、諸事万端予定通り進捗されつつありますので、今秋には吉日をとし、四千同窓の期待に應えて、あくまでも有意義且盛會に挙行されることは必定であります。

されば其筋には、全同窓もれなく万障繰合せて、この盛典に馳せ参じ、共に母校50年の歴史を語り、更に将来の発展を祝されんことを、呉々も希念してやみません。

尚ここに一言さし加えたい事は、このように50周年記念事業計画は、遍く会員の熱烈なる協力のもとに、順調な進捗を見つつありますが、

然し一部会員には未だこの挙に参加申込洩れの諸氏があります。これ等の各位は恐らくは日常の活動多忙のため、逐失念されたものと想像いたしますが、今からの手続きも更に差支えありませんから、この場合至急所属支会を經過お申込下され、我等が母校世紀の大盛典は、願わくば全同窓総参加のもとに挙行いたしたく只管希望する次第であります。

ここに今秋挙行される母校50周年記念祝賀事業の成功を期待し、一言所感を述べた次第であります。



雪 の 五 龍 岳

柴 崎 高 陽

技術面から見た化纖工業の方向

帝国人絹株式会社 常務取締役 櫻 田 健 二

合成繊維の展望

化纖にもいろいろの種類があるが、その将来の方向を決めるのは合成繊維であって、レーヨンはそれに付随して変わっていくと思われる。そこで合成繊維を中心に考えてみよう。

現在世界中で市販されている合成繊維は140種以上にのぼるが、これを化学的に分類すると10種以下となる。1958年の合成繊維の生産高はつぎのとおりである。

ポリアミド系 (ナイロン)	58,000万ポンド
ポリアクリル系 (オーロンなど)	13,000万ポンド
ポリエステル系 (テリレン, デークロンなど)	11,000万ポンド
ポリ塩化ビニリデン系 (サランなど)	3,400万ポンド
ポリビニールアルコール系 (ビニロン)	2,800万ポンド
ポリ塩化ビニール系 (ロービル・デピロンなど)	1,100万ポンド
ポリエチレン系	700万ポンド

多数の合成繊維が市場に出ているが、代表的なものは以上のものである。これからわかることは、現在市販されている合成繊維中で生産量の大きいものは、ポリアミド系 (ナイロン) ポリアクリル系 (オーロン) およびポリエステル系 (テリレン) 合成繊維であって、これらが主流をなしていると考えてよい。したがってこの三者を対象として将来現われてくる合成繊維を考えることができると考えられる。これらの繊維のもっている特徴はつぎのとおりである。

繊維	比重	強度 g/d	ヤング率	染色性	紡績性
ナイロン	1.04	4.2~6.6	小	良	不良
オーロン	1.17	2.5~4.6	普通	普通	良
テリレン	1.32	4.2~5.3	普通	困難	稍良
綿	1.54	3.0~4.9	大	良	良
羊毛	1.32	1.0~1.7	小	良	良

ナイロン、オーロンは羊毛より軽く、テリレンはほぼ羊毛と同じである。強さはナイロン、テリレンが大きく、オーロンは普通、そして羊毛は弱い。繊維のかたさを表すヤング率は、ナイロンは小で軟かく、綿は硬く、テリレンおよびオーロンはその中間である。

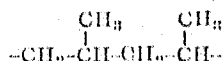
ナイロンは強度が大きいこと、染色性のよいこと、軽いことの長所をもっているが、欠点としてヤング率が小さいこと、紡績性が不良のことがあって、短繊維として用いられることはほとんどなく、フィラメントとしてもっぱら用いられている。オーロンの長所は軽いこと、ヤング率および弾性が羊毛に近いことであって、欠点は弱いことである。またテリレンは強くヤング率がナイロンよりも大であるが、染色性の悪い欠点をもっている。ナイロンはヤング率が小さいため、婦人用靴下にはよいが他の用途には腰のないものとなる。これらの特徴を基礎として将来の化纖の方向について考えてみよ

う。

[A] 新しい合成繊維

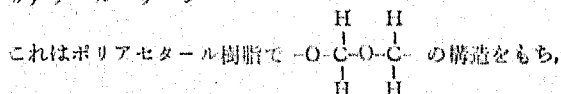
現在市場に出ているもののほかに、研究中のもの、工業化されつつあるものの中から、将来どんな合成繊維が現われてくるかについて考えてみる。

a) ポリプロピレン



ミラノ大学の Natta 博士が特殊触媒を用いて重合し、アイソタクチック・ポリマーとして出したもので、モンチカチーの Monticattini 社でプラスチック成型品として市場に出した。このプロピレンの特徴はモノマーが石油化学から容易に得られるのでナイロンの半値以下で製造できようである。この普通の重合物は液体であるが、アイソタクチック・ポリマーは $[m, p.]$ が 170°C . のかたい固体で比重は0.9である。ヨットの綱や帆布にすれば水に浮く。 $[m, p.]$ は決して高いとはいえないが、ロービルは軟化点、 $60\sim 70^\circ\text{C}$. 位であるのにくらべれば非常に高い。強度は $7\sim 10\text{g/d}$ で、すぐれているが構造からもあきらかなように染色性が非常に悪い。Monticattini 社では染色性の困難を解決したという。またプロピレンをメチルメタクリレートとともにグラフト重合させると、染めやすくなるという特許がある。染色の困難は解決したとしても、特殊染色法を用いればプロピレンの廉価がどこまでたもたれるか疑問である。さらにこの繊維の欠点は耐日光性が悪いことであるが Monsanto 社が Pantowhite Crystall (ゴムの酸化防止剤) という日光安定剤を用いて成功したとしているが、どこまで改善されているか疑問である。Monticattini 社はこの繊維の用途として靴下、セーター、毛布、作業服、絨氈および魚網などを考えている。

b) デルリン



Du Pont 社では5000万ドルの巨費と長い歳月を費して研究したという。このデルリンは機械の部品として使われており繊維としては、まだ市場に現われていない。またプラスチックに関する文献はでているが繊維としての文献はみあたらない。この繊維は比重 1.43, $[m, p.]$ 175°C . でポリプロピレンに似ている。ホルマリンを重合してつくるので安価である。したがって、これが繊維になると性能のいい繊維ができる。デルリンの欠点は紫外線に弱いことである。また、たいていの合成繊維はもえないがデルリンは小さい炎をあげてもえるという。分子構造から判るように水素を多くもっているため染色は容易であろうと思われる。Du Pont 社の研究所では繊維をつくってみたがあまり興味はなく、プラスチックの分野に適すといっている。

c) 弗素繊維

Polyfluorsethylene を 300°C . 以下で75倍に延伸して糸にする (Du Pont). わが国では大和紡と大阪金属で協同研究しているが特質は塩化ビニールの耐熱性と染色性を向上させることにあるという。

d) 尿素繊維

この繊維は東洋高圧社の“ユリロン”である。この繊維は $[(\text{CH}_2)_6 \cdot \text{NH} \cdot \text{CO} \cdot \text{NH}]_m$ の構造式をもつもので、ノナメチレンジアミンと尿素的縮重合によるものである。尿素は東洋高圧で自給し、ノナメチレンジアミンは米ぬかからアゼライン酸を抽出して原料とする。Carothers (Du Pont 社) もこの種の研究をやっていたが、成功しなかった。炭素数9のものを用いてはじめて成功したのである。それよりまゝは炭素数の小さいジアミンを用いていたので失敗したのだそうである。この繊維は比重 1.07 強度 $4.5 \sim 5.5 \text{ g/d}$, 伸度 $10 \sim 20\%$ ヤング率 $400 \sim 600 \text{ kg/mm}^2$ であって染色も容易であるので良い性質の繊維であるが、ノナメチレンジアミンを安く豊富にすることが問題である。

e) ポリウレタン

これは Du Pont 社が Fiber K と命名して中間試験をやっていたが近く工業的生産を始めるという。商品名はリラスタンテックス・ファイバーという。この繊維は比重 1.0 である。大きな特徴はゴム様弾性をしめし、伸度が 650% であって、用途は海水着、肌着などである。Du Pont 社では「ゴムよりも細く、軽く、耐久性がある」といっている。

f) 合成タンパク繊維

これはポリペプチド繊維であって、最近味の素 K. K. が中心となって繊維をつくらうと研究をはじめている。しかしどの程度の成果があがっているかはわからない。

以上のようなものが、現在研究され、工業化の段階にはいって、商品になろうとしている。これらの繊維の性能、特徴はまだはっきりしないものが多いが、今まで出ている合成繊維—ナイロン、オーロン、テリレンなど—と比較することによって、(a) ~ (f) までの合成繊維の将来性がわかり、将来の合成繊維の進む道がわかると思われる。私の感じでは現在生産されている合成繊維や天然繊維を徹底的におびやかすようなービスコース・レーヨンだけあった時代にナイロンが出現したように一繊維はいまのところ現われそうもない。

[B] 現在の合成繊維の改良

たとえばナイロンはヤング率が小さいので、これの大きい腰のつよいものに改良しようという研究がされている。オーロンでは、アクリロニトリルを他の多くのものと共重合して改良する研究をしている。最初にでたオーロンの欠点は繊維が黄色に着色していて脱色されなかったのが Du Pont 社では Golden wool と称して出していたが最近のものは白色のものに改良されている。またアクリランも最初、市場に出た時には衝撃によってフィブリル化したが、これもかなり改良されている。

ポリエステル系繊維のテリレンは、染色性の困難なことでピリングが問題であったが、これを改良する研究がされている。Eastman Kodak 社では、コーデルを出している。テリレンはテレフタル酸とエチレングリコールを縮重合させたものであるが、コーデルはエチレングリコールのかわりに

シクロヘキササン1, 4, ジメチロールを用いて比重 1.22 [$m. p.] 275^{\circ}\text{C}$. , 強度は 2.95 g/d で染色が容易になっている。テリレンの強度 $5.0 \sim 6.0 \text{ g/d}$ に比してコーデルの強度は約半分になっているが、染色性は改良され、ピリングがよくなっている。Du Pont 社ではコーデルの対抗品としてデークロン・タイプ64を出した。これは、テレフタル酸のかわりに塩基性染料に染まり易いものを加えて改良している。これは比重 7.39 強度 3.0 g/d で伸度は $20 \sim 26\%$ であって分散染料と塩基性染料にかなりよく染まる。ピリングも少くなっている。ビニロンもいろいろな型のものが研究されておりテピロンも、塩化ビニールの低温重合によって軟化点の改良が研究されている。

[C] 天然繊維(綿・ビスコース)の品質改善

綿は非常にふるい繊維で、綿紡は今後、大きくのびることはないとしても、セルロース自体を大きい重合物とみなしてセルロース繊維のもっている欠点を化学反応を用いて改良してゆけば大きく発展する可能性がある。あのよう規則正しくセロビオースが並んでいるものを人工的に得るためには非常に高度の技術と費用を要する。現在でもセルロースの部分酢化、シアノエチル化、ベンジル化などが行われ、織物の性質が大きく変えられようとしている。たとえば Courtauds 社は分子間に架橋結合をつくって、収縮を防ぐしっかりした Topel をつくっている。とくに最近放射線を用いる研究がおこなわれ、グラフト重合、ブロック重合などが出来やすい。放射線を用いてセルロース分子に他の分子を自由にグラフト重合ができれば、セルロースの性質をかなり変えうるのではなかろうか。セルロースをモノマーから作るとなれば、大変である。32門/ボンドでこの高分子を買えるということは大きな魅力であって、天然セルロースの合成化が出来れば化繊界に大きな影響を及ぼすと考えられる。

[D] 原料

わが国の化学繊維の製造原価の大半は原料の価格でしめられ、80~85%が設備費と原料に用いられている現状である。したがって、原料を安く得ることが、化学繊維を安くする方法である。たとえばナイロンにはナイロン6とナイロン66とがあるが、ナイロン6の原料であるシクロヘキサノンの製法として、ベンゼンからフェノールを経ずに直接シクロヘキサノンをつくり空気酸化によってシクロヘキサノンをつくる方法(ベンゼン直接法という)があるが、このときアジピン酸もできるので、アジピン酸を必要とする会社ではこの方法を用いると有利である。またフェノールをベンゼンとプロピレンからクメン法でつくることができるが、このばあいにはアセトンが大量に副製されるので、アセトンを利用できる会社ではこの方法が有利である。また、木材と関係ある会社では、フルフラールを原料として用いることが有利である。テトロンの場合、テレフタル酸の製法には、P-キシレンの酸化法と無水フタル酸の転化法があるが、いずれの方法を用いるかは、その会社のバック・グラウンドによって決定される。

いずれにしても、原料が製品の価格を決定するといえる。このことから、ある会社の化学工業がうまくいくためにはその会社が、総合的な化学工業会社であるか、または、相当に有利な方法で原料を供給しうるように系列化した会社をもっている必要がある。

[E] 販売

合成繊維の特徴と欠点とをよくつかんで、その欠点になるべく出さないように用途を見出していかなければならない。それにはかなりの研究と努力が必要である。

結 び

以上5つのことが、将来、繊維がいかにのびていくかの目

やすくなると思われる。

全く新しい合成繊維が、かつてのナイロンの出現のような旋風をまきおこすことはあるまい。いろいろな合成繊維が市場において、はげしい生存競争がおこなわれるであろう、これにうちかつためには、その繊維のもつ性能も重要であるがそれよりも、原料の製造と、その会社のバック・グラウンドがどんな位置にあるかということがポイントになるであろう。

換言すれば、同じ合成繊維会社でも、総合的化学工業会社としての形態を早くとった方が安定した会社となるであろう。

したがって、しばらくの間は合成繊維の戦国時代的競争の時期であって、ある意味では困難な苦しい時代であるが、開拓精神と覇気のある若人には働きがいのある面白い時代であろうと思われる。(文責編集部)

桑属の細胞学的研究

一 関 博 夫 氏 の 学 位 論 文 紹 介 一

前号でお知らせしたように、母校養蚕学科関博夫助教授(蚕23回)は京都大学より表記論文に対し昭和34年9月18日付をもって栄ある農学博士の学位を受けられた。

周知の如く氏は早くから細胞遺伝学的研究を基礎とした桑の品種改良とくに優良倍数性桑樹の育成に従事され、すでに幾多の倍数性桑樹を創成し、蚕糸業界は勿論海外よりもその研究成果が高く評価されている。

なお、過日(10月26.27日)長野蚕業試験場で行われた第14回日本蚕糸学会中部支部発表会において、同氏による桑属の倍数体についての特別講演は、桑育種の重要性をといったものとして聴衆に多大の感銘を与えた。

本論文は多年にわたる同氏の細胞学的実験に基づく桑の倍数性育種の基礎研究をつぎの2編に論述したものである。

- I. 桑の倍数性、とくに三倍体の自然発生機構に関する考察
- II. 毛桑(*Morus tiliaefolia* MAKINO)及びその種間雑種に関する細胞学的研究

以下論文の概要を紹介し祝意を表したい。

第I編には本邦における三倍性桑樹品種とそれらの自然発生機構に関する諸実験、調査などについて述べている。

多数の栽培桑品種並びに野生桑の染色体数を詳細に調べ、この中より新たに73品種の三倍体($2n=42$)を発見した。これは現在までに判明した三倍性桑樹品種数125の大半を占めるものである。

これら三倍性桑樹の細胞分裂について言及し、花粉母細胞第一分裂中期において三価対合が多い事実(83%)から判断して、桑の三倍体は同質三倍性とみなされることを述べている。つぎにこのように本邦における栽培桑樹品種中に存在する多数の三倍体の発生機構について考察し、この起因は桑樹の成熟分裂中に往々遭遇する降霜現象、換言すれば温度の急激な低下と密接な関連性を有することを見出した。すなわち降霜のあった4カ年間の研究材料により、降霜現象が桑樹の生殖細胞に及ぼす影響について細胞学的に観察した結果、霜害によって雄花が全体または部分的に褐色化しているものは勿論、外観的に霜害を受けていないものでも花粉母細胞の成熟分裂に顕著な影響を及ぼし、細胞内部の形態的諸変化や種々の異常成熟分裂並びに異常花粉四分胞子などが観察された。この異常花粉四分胞子のうち二分胞子の形成(降霜後3~4日目頃)の多いことは注目すべきことで、これらは結局非減数核を有する $2x$ 性のものであって、三倍体発生($2x$ 配偶子



と x 配偶子との授精による)の鍵ともなるものである。

以上のことから成熟分裂に及ぼす降霜の影響の最も著しいのは、第一分裂移動期及び中期であり、第二分裂終期及び第一分裂前期の初期が最も影響が少いと述べている。

なお、気象調査にもとづき三倍性桑樹の発生地では、桑樹の成熟分裂期にしばしば降霜のあることを明らかにしている。更にこれらのことを実証するため電気冷蔵庫を用いて若い雌花を $0\sim 6^{\circ}\text{C}$ の人為低温処理を行い、花粉母細胞の成熟分裂の状態を詳細に観察した。その結果は全く降霜に遭遇した場合と同ようであり、とくに $0\sim 3^{\circ}\text{C}$ の低温に7時間処理後2、3日目に形成された花粉四分胞子中には二分胞子が21~43%も混在していたことは興味深い。ついで四倍性桑樹の自然発生について述べ本桑樹の自然発生は困難で、本邦においては現在いまだに発見されない。したがってこの四倍性桑樹から自然三倍性桑樹の発生は考えられないと論じている。しかしながら氏はColchicine処理によって四倍体を創成し、これと二倍性品種との人為交雑による三倍性桑樹の育成には成功している。

他方、二倍性品種間の人為交雑によって得た三倍性桑樹の実例をあげ、しかも実用品種として普及しつつあることは全く自然三倍体の発生、選出、普及の過程と同ようであろうと述べている。

以上の諸実験に基づいて自然三倍性桑樹の発生に関し、とくに降霜現象がその有力な誘因となり得ることを論述し、更に自然環境要因のうち降霜現象がこの過程と合致することを見出した功績は多としなければならない。

第II編には毛桑とその種間雑種に関する細胞学的研究を述べている。

毛桑は桑属のなかでも特異の形態を呈しむしろ楮に似ている。同氏はその染色体数を $2n=84$, $n=42$ と決定し、14を基本数とした六倍体であることを明らかにした。つぎに毛桑花粉の発芽試験について述べ、人工発芽床における花粉の最適PHは毛桑と二倍体の山、白、魯桑三系統の桑樹とでは多少異り前者ではやや酸性が高い。しかし両者間には種々の正逆雑種または戻し雑種が容易に得られた。これら雑種の細胞学的並びに形態学的諸研究の結果から、毛桑は普通の桑に対して多くの優性形質をもっていることを知り、かつ桑と相同のゲノムを有する同質六倍体であると推定した。

要するに以上の研究は二方面より桑の倍数性育種に関する基礎的問題を解明したのみならず、これによって優良倍数性

桑樹育成の道を開いた実用的研究でもあり、ひいては蚕糸業の振興に寄与する所大なるものと確信する。

以上が論文の大要であるが、ここに贅言を要するまでもなく氏は稀にみる学究の人であり、その鋭い洞察力和細微な計画性、更に不斷の努力による真摯な研究態度には全く敬服の外はない。着想したことは即決即答、昼夜の別なくとことんまでやり抜く積極かつ敢為な人柄は万人の認めるところ。一実験終了までは勿論のこと、その他でも殆んど日曜、祭日を満身に休まれた日はないと記憶する。

氏の座右の銘である「汗を流して大道を開く」は幾多の労苦と体験に根ざすものであり、強い信念の母体とも言えよう本論文作製中(昭和32年11月22日)突然軽い脳出血に見舞われたが事後の休養も充分にとらず静養50日の短期間で登室され、右手頸の不自由をまかえりみず論文の完成を急がれたこ

とは、氏の断面を如実に表わすよい事例代と思う。

以前にはスポーツにも長じられ野球などは仲々の腕前だったが、病後はもっぱら古典美術の観賞に心を寄せられ、とくに刀剣鑑定造詣は深く、これらの展示会には忙中に関をとって参加鑑賞すると言う幽雅な趣味の持主でもある。

最近、新聞でしばしば公表された「四倍性桑樹に関する研究」は今後の蚕糸業の進展に大きな役割を演ずるものとして賞讃され、各方面から苗木、穂木の分譲依頼や観察者が後を断たない。現在この四倍性桑樹の実用化に関する試験を実施中でこれが一般農家への普及、栽培も間近というところ、これからの研究が大いに期待される。

終りに同窓生諸兄とともに今後における御活躍と御自愛の程をお祈りして筆を置く。(押金健吾記)

yale 大 学 カ ラ ー

坂 口 文 吾

アメリカの yale 大学に留学中の国立遺伝学研究所員坂口文吾氏(蚕34回卒)よりの本学田口教授宛便りを覗いて見た。

平素はすっかり御無沙汰致しまして、真に失礼致しております。其の後先生にはお褒めありませんか。もう信州も秋霜となり大変寒くなったことと存じます。私が参りました8月末頃はまだ可成暑かった。New Haven の町も今ではもうすっかり秋も深み、街路樹は美しい紅葉と化し、冬のおとずれをつけております。

New Haven は New York から汽車で約1時間半のところにあり、町で New York とは打って違って非常に静かな落ち着いた大学町で、そしてここに住んでいる人達も、いわゆる New England と言うだけあって落ち着いた服装と態度に好感がもてます。この私のいる Yale 大学は約200年前(1732)に発足したと言うとても古い大学で、その200年前の建物も現在尚大学の一角にあります。従ってこの大学全体の建物は一般に皆古く、そして非常にこうした建築様式で、それが一層学問の尊厳さを感じさせるような気が致します。学生数が約4000人Departmentの数が約50(正確には51)に分れ、それぞれの分野に亘って研究が続けられています。そして全部とは言えませんがこの大学の殆んど建物は4~5階以上は学生その他の宿舎となり、下の階の方に講義室、実験室などあり、勿論食堂などは主要な建建に一ヶ所位づつは付いており、真に学問の世界に明けそして暮れると言った生活も可能なわけです。

私は今 Zoology の Department に席をおいてあり、ここで狸々バエの遺伝を研究しています。残念なことにこちらでは蚕は飼育出来ませんので、狸々バエをやらざるを得ないのですが、これを使って、米国における遺伝学の現状とそして、将来のこの学問の進展方向を見極めて帰りたいと思っております。

私は米国人は勤務時間が済むとさっさと家に帰ってしまうと思っていましたが、さにあらず、一度帰宅したのがまた研究室に出て来て夜中の12時1時頃まで頑張る連中が可成多いのには驚きました。

しかし考えてみれば、彼等は校内に住居を持つ連中が多いこと、また殆んどが自動車を持ち、たとえ5~6哩離れたところに住んでいてもそんなに苦痛なく出掛けてこられる点は日本とちがい羨しい限りです。背後に抱える大きな経済力と物質文明とがもたらす結果にはかならないのだと思います。こんな点で思い当たるのは少数の例外を除いて学者の頭の程度は吾々日本人の学者と大差ないと思いますが、唯、或る考えを実行に移すことが物と金に恵まれた米国では日本より容易であると言う点だけだと言うことを痛感すると共に、若し日本人にこれだけの広大な国土と物質とを与えたならばどんなにか、立派な国となったであろうことを考えるとき、吾々日本人の地理的、歴史的運命をなげかざるを得ません。しかし吾々は唯これをなげいてばかりいるのではなく、米国のように持てる国のお金と物とを大いに利用すをよう、どしどし日本からこちらに來られ、日本国民の優秀性を示すと共に、人類の福祉のために貢献すると言うことを心掛けるよう、これからの若い人達に希望したいと思います。

筆の運びにまかせて、大変なお説を述べてしまいましたがしかし、私が以上の点を指摘するまでもなく、現にこの大学には日本人が約50人も居り、その中には学生も多いのですが中には大学の正教授として活躍されておられる方も数名数えます。外国人が米国の大学の教授になると言うのは仲々大変なことなのだそうです。米国の大学、殊にこの Yale とか Columbia 大学などのように名の通った大学では、日本と同じように特別のカラーがあるらしく、米国の小さな大学を出てこの大学の教授になるのにも大変なのに、ましてや外国人となると黒人が教授になる位むづかしいらしいのですが、こんな点確かに日本国民の優秀性がうかがえますね。

千曲会の記念事業で毎日多忙な日々をお過しのことと存じますが、暮々もお体を大切にして下さい。私の留守中何かとお世話をお掛けすることと存じますが何卒よろしく願い申し上げます。学校の先生方にも先生から暮々もよろしくお伝え下さい。この手紙で私は最初先生に一つお願いを致そうかと思つて書き出しましたが、それはこの次の機会に致します。



おめでたの話

石倉新十郎

新年を迎えると何となく朗らかで、おめでとくと挨拶しなければ気がすまぬ。私は今年75才になって、まあ長生きの方であろう。千曲会では今年創立50周年記念の式典を挙げられるそうである。定めし多勢の名士によってめでたい祝詞が述べられることであろう。参列者は勿論、参列しない会員も新年以上にめでたい気分になるだろうと思はれる。

そこで私の癖としてめでたいという言葉の意味を考えてみたい。何かに喜ぶような事があるとき他から何かの方法で同感の意を表するのが祝いであり、また本人自らが表現するのも祝いであろう。喜びの発生がめでたいので、発生であるから芽出たであり、めでたいの語原らしい。新年を迎えると何かしら良い事が発生する気がしてめでたいというのである。発生のめでたから転じて祝いたい喜びを来たした場合もめでたいというようになったらしい。50周年の喜びは之れであり、めでたいから記念祝典を挙げるわけである。

発生や結果のめでたいと趣きの異ったのに、あの人はおめでたい人だなどという失礼のような言葉がある。それはどんな人かと考えてみると、性格が普通と違って事の次第に頓着せず悦ぶような呑ん気家に対していう場合があり、また普通の世人なら苦惱するところを超然として意に介しない人に対していう場合がある。

かようにめでたいの意義は様々であるが、何れも人に喜びを来たすものである。

ことに違いない。他からみて悦ぶ原因がわからず、其の理由に不審をもつ者もあろうから、50年めが何故嬉しいのか、またあんな境遇にありながらどこが喜びなのかと疑う人もあろう。

憶うに人の喜びは不快な事からのがれる消極的なものがあり、嬉しい事に恵まれる積極的なものがある。その消極の中には努力なしにおのずから消え失せる場合があるが、駄目のものは結局駄目で慣れと諦めめで消え去る場合もある。積極の方は努力の結果であるものが多いが予期しないのに成るものは成る喜びもある。

さて上田創立以来の50年を回顧して、私の喜びはどうかとみれば、この消極的なもの積極的なものの連続して綿々たるものがある。私はもとの東大工科大学機械科出身であって、上田での専門の仕事といえば製図と力学機械学の講義だけであって、他にした仕事は皆な余技でしかない。新卒業で赴任してみるとほとんどの教授は農学科出身ばかり、法理文科出身が1人ずつ工科出身は私1人だけであった。だからやる人なしで頼まれるままに電力瓦斯水道紡績然絲機械電話の設備まで何でも屋の技師をやらせられたのである。赴任当初はせいぜい1、2年厄介になるつもりであったのに文部省の配給予算がだらだらで、設備がたちあかず5年6年とたちまちに過ぎ去り、漸く完成をみたのである。すると意外なことに紡績科が新設されることになった。学校としては予定であったかもしれない。之れが前述の成るものは成るである。教師になる考えもなく勧められて教授になって学校の教育実体をみると、農性が半分工性が半分であるのに、専門所属教官をみればほとんど農科出身ばかりで工科出身は大滝君と私の2人だけであった。こんな不公平な配分はない。紡績科が併置されて農性4、工性6の割合になっても、変

らず不公平甚しいものであった。之れを何度校長に述べ正常化を説いたか、有力識者に会うたび話し、文部当局に直接具申してみたが全々問題にされなかった。これが前述の駄目のものは駄目である。然し専門でもない何んでも屋が手を出して完成した前記の諸設備は何れも専門技師達に頼められたほどの出来栄で、之れらは求めずして恵まれた喜びであった。こうすることがままならぬ所で世の中というものである。憶うに人生は波動の上り下りであるらしい。人生の波動の中には運命が伴うものである。元来私が上田の学校に行く気になったのは、生糸の本性を調べて原料のまま輸出された生糸を絹織物の製品にして輸出するようにしたい希望からであった。今から思えば世間知らずの若者らしい生意気も甚しい考えからであった。それが学校では研究どころか、初めから何でも屋の技師になってしまつて、生糸加工業の実現などは夢のように消えてしまったのである。紡績科が独立することとなると、私は是非外国に留学して紡績の視察をしてくるようにとの要求であった。当時留学となれば期間が3年であり、私の体質は蒲柳のたちなので親と相談の上、1年の留学なら条件を出した。前例のない事を文部省が承諾したので気が進まぬながら留学に出発したのである。そして之れも前例のない1年間に米、英、仏、伊、瑞、独と巡廻旅行ができたのである。留学中健康注意の習慣がつき、其のお蔭で今のようにな長生きするようになったらしい。こんなふうに風船が浮木のように流れるままになった運命の恵みであるらしい。要するに今までの生涯を省みると、運命の右でも左でも、また波動の上りでも下りでも1方はあきらめと1方は喜びで人間のおめでたさは治らず、また次々つきないものらしい。(旧職賛助員)

千曲会員名簿50周年記念号完成

かねて予告しておいた会員名簿記念号も動静部において鋭意仕事を進めて来たがこの程完成した。本誌第93号で通告しておいた通り本名簿は寄付金納入者に限り贈呈することになっているので寄付金納入者には順次発送を始めた。未納入者は勿論、未申込者もなるべく早く寄付金納入を済まされますよう、そして記念事業の目的が計画の通り達成されるよう御協力御支援を御願ひする。

昭和34年12月1日

母校50周年記念事業部
千 曲 会 動 静 部

記

1. 千曲会 員 卒 業 期 別 名 簿
1. 全 国 織 維 関 係 会 社 銘 鑑
1. 総 頁 数 472 頁
1. 発行期日 昭和35年1月1日

第20回千曲会総会議事抄録

11月23日好天に恵まれて定例千曲会総会が学部会議室において開催された。北奥・鹿児島などの遠隔の支会をはじめ、各支会から86名の代議員役員が参集された。委任状は11支会より到着、当日の議長には上小支会の竹内善吾氏、副議長には安筑支会の井沢喜三氏が選出され議事の審議が行なわれた。会の次第は下記の通りである。

1 理事長挨拶 野口理事長

2 名誉会長祝辞 林学部長

3 会務報告 中島理事

4 議長選出 5 議事

1 昭和33年度収支決算について(本部)

2 昭和35年度収支予算案について(〃)

3 母校50周年記念事業募金申し込みの完結、募金納入について(本部)

4 記念事業
協賛会の設
立について
(〃)

5 賛助会員
の推挙につ
いて(〃)

6 千曲会強
化について
(東京支会)

7 台風被災
地区会員の
50周年記念
事業募金納
入期メ切延
期について
(愛知支会)

8 通常会費
徴収方法に
ついて

9 千曲会支会旗製作について (群馬支会)

総会は午後5時に終了し続いて市内香青軒で懇親会が行われた。議事録から主な内容を抄録すると次の通りである。

理事長挨拶 本会向上発展に協力感謝し、50周年記念事業について各位の御賛同によりその募金申し込みも快速調に進み明秋事業を盛大に行われる計画について審議することになった感激を述べる。

学部長挨拶 母校振興に伴う学科名変更、学科増設申請についての経過報告と今後の支援を希望、新卒業生の就職状況は好調であり各位の御協力を感謝された。

会務報告 理事会は4月および10月に拡大役員会の形式で開催した。10月に50周年記念事業実行委員会をそれぞれ開催し理事会では基本財産の保管を安全増殖の法に変更した。50周年記念募金の申し込み期限を12月末に延長し、納入期限を35年3月末日までとした。支会還元金は5%であったが増額

して10%と決定した。次に支会の適正分割については東京支会より山梨支会が独立結成され、北陸支会が石川富山の二支会に分割結成した。その他3県以上に亘っておる支会についても検討している。東京事務所については引続き適当な場所を物色中である会員名簿は近く完成し記念事業募金を完納された会員に贈呈することになっている。母校振興委員会は6月に開催し経過報告を中心に協議した。物故会員は14名で会員数現在 4344 名となっている。

議長選出：理事長指名により前記のとおり決定。

議 事

○昭和33年度収支決算：町田理事より決算説明のあと神林監事より監査報告あり別掲の通り承認された。主な質疑は特別会計の内容特別活動資金による就職斡旋活動状況、研究奨励費の利用は上田繊維科学振興会が充足するのでその方で補助

して行く予定である。

ここで午前
の部は終り記
念撮影、昼食
が行われた。
○昭和35年度
収支予算案に
ついて：別掲
の通り可決。

質疑の主な
ものは長期会
費納入者の会
費免除は50周
年事業終了後
に善処する。
事務所費、事
業費の中低額
項目は項目保

存のためである。会報発送については会員の動静連絡を緊密にして発送洩れのない様にする。

○募金申し込みの完結及び募金納入について

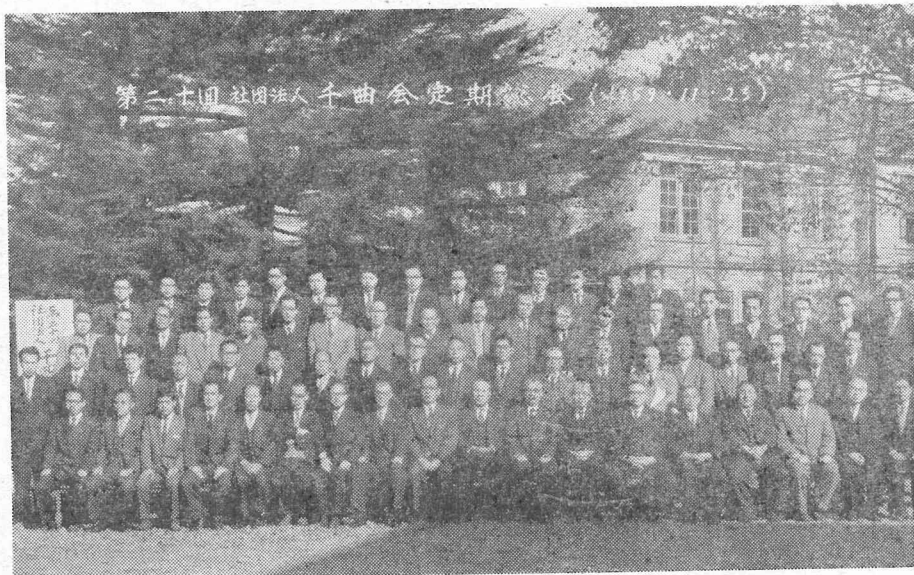
○台風被災地区会員の募金納入期間のメ切の延期について：募金の申し込み完結は12月末迄とし募金納入完結は昭和35年3月末とすることにきまった。台風被災地区会員の納入期は延期して6月末迄とし愛知、三重、岐阜、の支会長に其のことを通知することにきまった。

○記念事業協賛会設立案について：

活発な意見が出されたこの意見を織り込んで協賛会設立発起人会に交渉して設立することにきまり原案は承認された。

○賛助員の推挙：久間秀彦氏外11名が賛助員に推挙さる。

○千曲会強化及び会費徴収方法並びに支会旗の製作について：会に魅力をもたせるための支会強化、会員相互の福祉互助など切実な意見が出た。会費徴収については学外実習生をアルバイトとして利用する方法、支会のシンボル母校直結の愛校のシンボルとして支会旗製作等千曲会強化の提案があった。この問題は更に理事会に於て検討することを委嘱した。



当 選 御 礼

八 木 誠 政

昨秋日本蚕糸学会、日本応用動物昆虫学会を始め各位の御推薦を戴き、日本学術会議第6部全国区に立候補致しました処当選の栄を得ましたことは皆様の有力なる御高援の賜と存じ只感銘致しております。

この上は公約を重んじ精魂を尽して努力いたし皆様の御期待にそい得ますよう念じております。幸に微意を諒とせられ今後共一層の御指導と御支援とを仰ぎ度く御願ひ申し上げます。

昭和33年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳 入
決 算 高 金 660,021円

歳 出
決 算 高 金 630,103円

歳入歳出差引残高
34年度繰越 金 29,918円

以上総会の認定に附す

昭和34年11月23日

社団法人千曲会 理事長 野口新太郎

歳 入

種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	附記
1 基本財産より生ずる利子	17,090	19,200		2,110	
2 前年度繰越金	139,353	50,000	89,353		
3 雑 収 入	30,568	17,600	12,968		
1 廣 告 料	12,000	15,000		3,000	会報広 告
2 印 税		100		100	
3 現金予金利子	6,068	2,000	4,068		網糸の 構造利 益金
4 雑 入	12,500	500	12,000		
4 入 会 金	54,000	64,000		10,000	
5 会 費	419,010	610,000		190,990	
6 寄 附 金		400		400	
歳 入 合 計	660,021	761,200		101,179	

歳 出

種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	附記
1 会 議 費	18,245	41,000		22,755	
1 代議員旅費	6,590	20,000		13,410	
2 総会需用費	2,530	6,000		3,470	
3 役員旅費	2,800	8,000		5,200	
4 役員会需用費	6,325	7,000		675	
2 事務所費	131,564	188,200		56,636	
1 幹事給料	—	100		100	
2 書記給料	103,500	104,000		500	
3 旅 費	6,460	20,000		13,540	
4 備 入 料	500	1,000		500	
5 役員交際費	—	3,000		3,000	
6 賞 与	—	100		100	

7 備 品 費	1,700	10,000		8,300	騰字ヤ スリ板
8 消 耗 品 費	9,660	10,000		340	
9 会 費 集 金 費	3,480	30,000		26,520	
10 通 信 運 搬 費	5,764	7,000		1,236	
11 雑 費	500	3,000		2,500	
3 事 業 費	347,240	356,000		8,760	
1 会 報 発 行 費	339,510	345,500		5,990	
1) 印 刷 費	208,260	187,000	21,260		会報76 ~86号
2 編 輯 費	12,000	16,500		4,500	11回 11回送
3 送 料	110,250	132,200		21,750	料 封ノ ー
4 需 用 費	9,000	10,000		1,000	
2 出 版 費	—	100		100	
3 会 員 名 簿 費	—	100		100	
4 講 義 講 習 諸 費	—	100		100	
5 研 究 補 助 費	—	100		100	
6 調 査 費	—	100		100	
7 共 済 費	7,730	10,000		2,270	
4 基本財産造成費	54,000	64,000		10,000	
1 蓄 積 費	54,000	63,900		9,900	
2 研 究 奨 励 資 金 蓄 積 費	—	—		—	
3 針 塚 賞 資 金 蓄 積 費	—	100		100	
5 会 費 納 入 交 附 金	79,054	100,000		20,946	
6 研 究 補 助 金	—	—		—	
7 予 備 金	—	12,000		12,000	
歳 出 合 計	630,103	761,200		131,097	

昭和33年度 基 本 財 産 状 況

種 目	収 入	支 出	現在高	附 記
基 本 金				
前 年 度 繰 越 金	306,946			
本 年 度 利 子 収 入	16,210			
本 年 度 積 立 金	53,800			
通常会計繰入高		16,210		
差 引 残 高			360,746	
研 究 奨 励 金				
前 年 度 繰 越 金	3,385			
本 年 度 利 子 収 入	230			
本 年 度 積 立 金	100			
通常会計繰入金		230		
差 引 残 高			3,485	
針 塚 賞 資 金				
前 年 度 繰 越 金	9,185			
本 年 度 利 子 収 入	650			
本 年 度 積 立 金	100			
通常会計繰入金		650		
差 引 残 高			9,285	定期予金、貸 付信託=保管
合 計	390,606	17,090	373,516	

昭和33年度 理髪所収支決算書

収 入			支 出		
項 目	金 額	備考	項 目	金 額	備考
前年度繰越金	16		給 料	165,249	理髪師及び事務員給
理髪代収入	187,190	1年間繰収入	備 品 費	1,700	
			消 耗 品 費	550	
			借 家 料	5,674	火鉢1ヶ
			電 気 料	4,288	理髪券
			水 道 料	1,221	取扱者に対する交附金
			交 附 金	4,361	
合 計	187,206		合 計	183,043	

差引残高 4,163円 昭和34年度へ繰越す。

昭和33年度 特別会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	397,172	東京事務所借用料	10,000
利子収入	23,530	雑費(送金料)	80
合 計	420,702	合 計	10,080

差引残高 410,622円 昭和34年度へ繰越す。

昭和33年度 特別活動資金報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	288,077	就職斡旋委員会費	
寄 附 金	1,300	旅 費	27,300
利子収入	9,595	募 金 経 費	
		手 数 料	30
		雑 費	
合 計	298,972	合 計	27,330

差引残高 271,642円 昭和34年度へ繰越す。

昭和35年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳 入	歳 出
予 算 高 金 814,200円	
予 算 高 金 814,200円	
歳入歳出差引残金	なし

昭和34年11月23日

社団法人千曲理事長 野 口 新 太 郎

昭和35年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳 入

種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
1 基本財産より生ずる利子	29,400	22,200	7,200	
2 前年度繰越金	50,000	50,000		
3 雑 収 入	22,400	17,600	5,000	200
1 広 告 料	20,000	15,000	5,000	
2 印 税	100	100		
3 現金予金利子	2,000	2,000		
4 雑 入	300	500		200
4 入 会 金	52,000	48,000		新入生130人×400円
5 会 費	660,000	640,000		1,500人×300円
6 寄 附 金	400	400		420人×500円
歳 入 合 計	814,200	778,200	36,000	

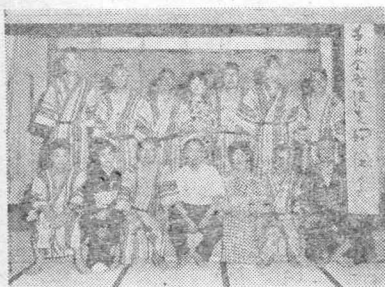
種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
1 会 議 費	75,000	40,000	35,000	
1 代議員旅費	50,000	20,000	30,000	1,200円×42人
2 総会需用費	6,000	6,000		
3 役員旅費	12,000	8,000	4,000	1,200円×10人
4 役員需用費	7,000	6,000	1,000	
2 事務所費	174,200	169,200	5,000	
1 幹事給料	100	100		
2 書記給料	91,000	91,000		
3 旅 費	24,000	20,000	4,000	1,200円×20人
4 備 人 料	1,000	1,000		
5 役員交際費	3,000	2,000	1,000	
6 賞 与	100	100		
7 備 品 費	5,000	5,000		
8 消 耗 品 費	10,000	10,000		
9 会 員 集 金 費	30,000	30,000		
10 通信運搬費	7,000	7,000		
11 雑 費	3,000	3,000		
3 事 業 員	333,500	323,500	10,000	
1 会報発行費	323,000	313,000	10,000	
1) 編 集 費	15,000	15,000		
2) 印 刷 費	166,000	156,000	10,000	
3) 送 料	132,000	132,000		11回分
4) 需 用 費	10,100	10,000		
2 出 版 費	100	100		
3 会 員 名 簿 発 行 費	100	100		
4 講演講習諸費	100	100		
5 研究補助費	100	100		
6 調 査 費	100	100		
7 共 済 費	10,000	10,000		
4 基本財産増成費	52,000	48,000	4,000	400円×130人
1 蓄 積 費	51,900	47,900	4,000	
2 針塚賞資金蓄積費	100	100		
5 会 員 納 入 交 附 金	143,000	140,000	3,000	会費額×1/4×23
6 予 備 費	36,500	57,500		21,000
歳 出 合 計	814,200	778,200	36,000	

会 員 近 況

愛媛支会総会記

昭和34年度の総会が、母校より田口教授学外実習生指導のために来県された機に開催された。暑い時期でもあり学校関係では夏中休暇時期でもあった為に、吾々の都合が出来急に出席出来ないような方もあって、集った人数は少なかつたが意義深い会であったので当日の模様を簡単に報告する。

開催日時 昭和34年8月23日
場 所 松山市道後 宝荘



会は午後2時頃より始まり、内川支会長の挨拶、田口教授の母校の現状についての説明があり、次いで工藤幹事より本日の総会の主な議題である50周年記念事業資金募集についての経過報告があって目標額達成のため今後の取扱いについて出席者全員の意見を求め総会を終るその後内湯の温泉で汗を流し、浴衣に着替へ別室での懇談会に移る。午後6時頃田口教授は次の予定地へ出席する都合で高浜港出帆の船に乗るため道後発のバスに乗り、次いで松山市在の会員ばつばつ帰宅遠方組は最終の汽車がなくなり、宝荘に宿めて頂くこととし腰を落着け、夜の道後を見物、宿では昔話に花が咲き、寝たのは午前1時を廻っていた。

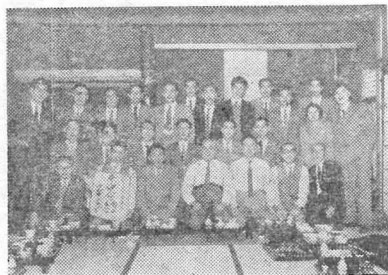
内川支会長挨拶 同窓会も感受性の最も強い時代と一緒に或は同じ処で過したものの集りであり、年齢的に見ればかなりの開があるとも、必ず話しの共通点が見出せる処にそのよさがあるもので私達は同窓会の発展を願うものである。今日集った人数は少数ではあるが大正3年卒の大先輩より今年卒業の若い方の出席を得たことは、誠に意義深いことである。今回の母校50周年記念事業資金募集について、卒業年次別に出资日期を設けているが、必要なことは全員がこの事業に参加することであり、自分の分に応じて出資することが大切である。そのことによつて会員の同窓意識も深まり、自然と母

校発展にも連るものである。尚母校の発展は同時に同窓の社会活動に大きな影響を及ぼすものである。私達は母校発展のために大いに努力せねばならぬ。

50周年記念事業資金募集経過 昭和33年8月開催の総会で、この資金募集のことが決定せられ、同年11月30日第1回幹事会を開催し各地区の状況を話し合い募集可能額等について検討する。34年2月22日第2回幹事会を開き、愛媛支会の募集目標額を決定し本会へ報告すると共に募金期日を6月、12月の2回とし年末までに完納することとし、各地区の幹事に於いてその地区の募金に当ることとする。現在(8月末)に於ける申込額は目標額の80%であるが、不足額の20%分については今後の募集は相当困難と思われるが会員の本事業に対する協力を更にお願ひして目標額を達成したい。この目標達成は会員の御理解によるほか方法がないのであるから内川支会長さんのお話にもあったように記念事業を理解して頂き母校愛による一層の御協力をお願いする次第である。出席会員の印象は紙面の都合上割愛し益々御健勝と御発展を期待します。(工藤見吉記)

富山支会結成総会

10月18日千曲会富山支会結成の総会を開催した。場所は富山市翠明荘。参会した会員は26名で午前11時開催先づ彼末武猪氏(東洋ナイロン編物常務取締役)が発起人を代表して結成総会にいたるまでの経過報告を兼ね挨拶があり、支会規程



及役員を次のように決定した。支会長、彼末武猪、副支会長、丸山力蔵、代議員柳沢六平、幹事に富山地区長谷川敏夫、福波地区矢崎勝、高岡地区、上野毎夫、新川地区柳沢六平の各氏に御願ひすることに決まった。五十周年記念事業資金については支会結成がおくれたが募金割当を全員一致完遂を決議しとりあえず本会に89,000円の一括申込をした。議事も円滑にすみ懇親会に入った。支会長を初め各

自持前の余興を披露し、旧交を温め盛会であった。歓談に時の過るを知らず、夕刻6時校歌斉唱支会万才を三唱し盛会裡に散会した。(丸山記)

鹿児島日より

10月22日午後4時半頃突然八木先生から鹿児島大学より電話があった。夢かと思ひ喜んで会員を代表して指宿で先生の尊顔に接して誠に嬉しかった。しかし先生は指宿で泊られただけで私の願も叶はず23日午前5時56分発かいもんで熊本福岡を経て御帰学された事は残念であった。1方辻、牧宮、宮城兄は八木先生に沖縄料理で歓待する準備をしていたが御見えにならないので集った会員だけで総会を開催し御馳走になった。この集いは先づ八木先生が皆に逢えなかつたが鹿児島まで御多忙の中をさいてきて頂いたことと先生の伝言をつたえて挨拶にかえた次いで岩切兄が10月3日母校で開催された母校50周年記念事業の実行委員会の模様報告があり、上田市も綺麗な町になり塵一つないこと母校の状況報告に皆懐かしさと母校愛の話しになり、なごやかに議事が進んでいった。

特記すべきことは宮の城から鹿児島まで浜武八男兄が單車で多忙の中にかけて会を一層明るく導いて頂いた事である。それと責任感の強いのに深く心をうたれた。将来県の蚕糸業を背負うて立つ人だけあると感心した。牧宮兄は繭検本所に抜擢され主任として活躍中である。辻蚕糸指導所長は課長級に昇進もそう長い事であるまい。上下の信頼は特に光っている。児玉兄は高校の先生は馬鹿らしいとあって繊維卸商を経営各地に支店を設けて大活躍。岩切兄は製糸経営口八丁手八丁片倉も兄には敬意を表している。堅実な製糸主である。中山翁は白髪白髭で既に第1線から退いて九大附高試験地や塩業組合のより役で若い者に使い廻されている。なお今日は見えなかつたが大先輩木脇、宇都宮も御健在で幸福な生活をされておる。酒匂は有名な志布志高校の先生。安田は大隈開発の主役その活動はめざましい。入佐、寺屋は自営、柳村瀬脇、東、には面接の機会がないが面談したいものと懐しく思う。鈴木、日高は県の立派な技術者で活躍中である。次の総会には家族同伴で指図の風景をめで楽しい会合を持ちたいと談ひ合い散会した。(中山吉二記)

母校だより

○11月20日哲学担当の西川竹彦教授が薬石効なく肝硬変症で逝去された。

○11月24日講堂で下記講演会が開催満員の盛況であった。

化学繊維工業の意義と将来 大屋帝人 社長

技術面から見た化繊工業の方向 桜田 帝人 常務

化繊工業のマーケティングについて 西村 帝人 取締役

○12月5日科学教育研究室の研究発表会が開催された。

多大の感銘を与えた。

○12月21日から1月20日まで学生は冬semesterに入る。

伊藤 武男 監修

絹糸の構造

45判 550頁 図360余 1,300円

残部若干あり御希望の方は御申下さい。

上田市常任信大繊維学部内

千曲会 出版部

振替 東京 43,341

本会日誌

- 11月6日 山陽支会長江野村一雄氏、来館。
- 11月9日 石川支会長新野武雄氏、群馬支会碓氷茂氏、栃木支会岩下嘉光氏来館。
- 11月10日 群馬支会長小山清氏富山支会長彼末武猪氏、北九州支会長小山祖光氏来館。
- 11月12日 宮城支会長山本友之丞氏来訪。
- 11月13日 東京支会総会に北条理事出席。
- 11月14日 兵庫支会総会に野口理事長出席。
- 11月15日 近畿支会総会に野口理事長出席。
静岡支会総会に田口理事出席。
- 11月18日 学内理事会開催、昭和33年度収支決算、昭和35年度予算案審議す
- 11月22日 監事会開催昭和33年度収支決算について監査す。
- 11月23日 第20回定期総会を学部会議室に開催。
- 11月26日 更埴支会塚田典次氏来館。
- 11月28日 諏訪支会金野巖保氏来館。
- 12月1日 学内理事会。
- 12月5日 会報編集委員会開催。

50周年記念事業申込

1. 北海道支会

2,000円 勝野貞哉 (蚕35)

2. 山形支会

10,000円 長谷川恒三 (糸20)

5,000円 長谷川弘平 (糸18)

3,500円 井上貞二 (蚕28) 佐藤克治 (蚕19) 岡崎勘助 (蚕16)

3,000円 前田雅弘 (蚕4) 斎藤幸藏 (蚕15) 井上兵一郎 (蚕12) 多勢 一 (糸30)

2,000円 島倉之雄 (蚕36)

1,000円 馬場昭 (学糸2) 後藤仙弥 (蚕9)

3. 福島支会

2,000円 上島喜代志 (紡20)

1,000円 松尾昭光 (紡27) 菅野忠信 (学蚕6)

4. 茨城支会

4,500円 高橋英 (糸21)

3,500円 高野憲三 (蚕26)

3,000円 加藤省三 (蚕19) 堀川収 (蚕20)

2,000円 米川富秀 (蚕前33) 寺島雅彦 (13)

1,000円 谷沢衛 (26) 野田澄夫 (化4) 手塚輝夫 (学蚕2) 伝田敏夫 (学蚕3) 尾崎正和 (学蚕6) 上野平八郎 (学蚕1)

500円 金井節博 (糸別3) 若林時子 (糸別6) 片桐和子 (糸別6) 野口国夫 (蚕別7) 佐々木葉子 (〃) 小泉人美 (〃) 清水香公子 (〃) 相馬満代 (〃) 綿内正子 (〃) 依田敦子 (〃)

5. 栃木支会

2,000円 佐藤秀夫 (蚕30) 田島政三 (蚕31) 若林宏一 (糸33前)

1,500円 鈴木喬 (蚕28)

1,000円 桜井友吉 (糸別1)

6. 群馬支会

8,000円 小山清 (糸11)

6,000円 上屋孝 (糸15) 宇田虎一郎 (蚕10) 森戸 晋 (蚕15) 手塚芳太郎 (糸5) 黒沢袈裟彦 (糸16)

5,500円 岩根 謙 (蚕11)

5,000円 碓氷茂 (紡3) 阿部茂一郎 (蚕15) 長谷川正雄 (蚕11) 浜井寿夫 (蚕2) 小山恵治 (蚕15) 大熊市治郎 (蚕13) 岸 益吉 (糸2) 庭野明之助 (糸16) 村上亀久司 (糸17)

4,500円 萩原行雄 (糸20) 市川信一 (蚕20)

4,000円 小柳源一 (蚕24) 土屋 勉 (紡15) 竹内好武 (蚕23) 横沢 正雄 (蚕23) 岡庭武治 (蚕23)

3,500円 目崎武美 (蚕26) 小泉恭平 (蚕27)

3,000円 桑島新一郎 (蚕31) 神林英雄 (蚕32) 岩井実 (紡23) 小平一彦 (蚕31) 小池恭正 (蚕30) 猪坂哲郎 (紡22)

2,500円 三井滋 (糸33前) 谷内田昭一 (糸34)

2,000円 宮林昭樹 (蚕37) 小山清一 (糸36) 内山秀穂 (学化1) 小林信夫 (糸35) 長井一夫 (蚕37) 間島巻代 (教5) 田中正雄 (学化7) 関口得三 (糸11) 高草木孝典 (紡28) 三輪久利 (蚕34) 牧野芳成 (糸37) 沼田健 (紡29) 長井利明 (蚕36) 島田仁治 (蚕36)

1,500円 小松敬治 (蚕38) 矢崎甲子男 (糸33後) 小野沢英次 (紡26)

1,000円 田村朝之助 (紡11) 降旗孝夫 (学蚕5) 阿形一三 (蚕25) 海野信 (紡28) 小菅貞三 (糸23) 栗林茂治 (学蚕5) 橋詰強 (学蚕7) 茅野 寛 (糸別4) 斎藤宗雄 (糸別3) 名取榮男 (糸別2) 新井真方 (学蚕6) 森田健治 (学蚕6) 中里見友三郎 (蚕1) 金子堪子 (糸別6)

500円 服部礼次郎 (糸別6) 森泉次夫 (糸別4)

7. 東京支会

10,000円 武本本治 (蚕13)

5,000円 松野輝彦 (糸21) 馬場武 (糸18) 石井公男 (糸17) 矢野栄輝 (糸17) 万石安太郎 (蚕9) 一之瀬茂 (糸21)

4,500円 横内豊彦 (糸22) 吉田為雄 (糸21)

4,000円 五味九十二 (紡17) 有我彰夫 (蚕20) 今村寛治 (糸22) 吉川啓人 (糸25)

3,500円 関茂男 (糸22)

2,000円 竹内彦保 (蚕32) 久保田康夫 (蚕30)

1,500円 後藤新 (蚕33後)

1,000円 志摩哲夫 (糸31) 宇羽野元 (学化4) 樋口栄四郎 (学化4) 佐上孝 (学化4) 佐野正美 (糸34) 那須野博人 (糸30)

500円 浜正和 (糸36) 鈴木行徳 (学糸1) 森美知子 (教8) 北沢久美子 (教婦) 山田ちか子 (糸別2)

8. 神奈川支会

5,000円 好士泰造 (糸8)

9. 越佐支会
10,000円 秋山利夫(蚕24)
5,000円 市村志真衛(蚕18)
2,000円 鈴木俊夫(蚕24)
1,000円 池田秀一(学系5) 宮川英一(学蚕3)
10. 石川支会
3,500円 森干城(蚕1)
2,500円 北崎喜義(紡18)
1,000円 土屋正三(紡7)
11. 上小支会
10,000円 笠原正巳(糸15) 母袋忠右衛門(蚕23)
5,000円 片山汝夫(糸15) 太田元(蚕13) 峯村寿命(蚕5) 笠原四郎(蚕18) 母袋良平(蚕10) 川上保人(化1) 工藤実司(蚕19)
4,000円 多田忠正(蚕24)
3,500円 佐藤一助(蚕29) 外村吉高(蚕29)
3,000円 清水猛(蚕31) 西沢茂久(紡専) 佐藤勇二(蚕33) 西村国男(蚕29) 荻原秀治(化2) 小泉ムラ(教8) 二宮新二郎(紡22)
2,500円 久保田昇(蚕32) 宮下敏男(農1) 森高俊成(紡26)
2,000円 三輪雅嘉(農2) 清水厚(農4) 小林敏(蚕22) 堀橋人(蚕37) 多田満(教4) 宮島国雄(化5) 出浦重右衛門(蚕35) 小林俊平(蚕36)
1,500円 斎藤芳夫(農5) 宮本聡一(学系1) 酒井栄一(学蚕1) 加藤満亀雄(農4)
1,000円 沢沢栄一(農4) 横内和多良(学系4) 竹鼻孝夫(学蚕4) 斎藤りん(教3) 山岸国雄(糸36) 堀込宗吉(学蚕7) 佐藤政弘(学系7) 永井良治(糸別18)
500円 桜井辰江(教4) 峯村さち(教
- 10) 峯村むつ(教6) 小野邦一(農3) 丸山いく代(糸別3) 鎌原俊夫(学系1) 村上けさみ(教12)
300円 曲尾治子(教7)
12. 更埴支会
3,000円 桜井吉利(蚕6) 中曾根悦夫(学化3) 関嘉四郎(糸14)
2,000円 高沢巧衛(農3)
1,500円 大塚泰登(蚕別2)
1,000円 高藤康代(糸別8) 大木秀夫(学紡3) 小松勝治(糸31)
500円 吉木成子(糸別1) 小林英子(教5)
13. 安筑支会
5,000円 浅野清志(蚕15) 加藤秀次郎(化1) 斎藤隆(糸16)
3,000円 熊谷恒次(蚕16) 鈴木彦佐(蚕26) 清水義夫(紡24) 高木信雄(紡15)
2,000円 三木寛一(蚕32) 中山昌雄(蚕前33) 中村正義(紡19) 山崎千春(蚕30) 吉越繁夫(糸22)
1,500円 加藤達郎(化6)
1,000円 斎藤寧治(蚕別6) 丸山依純(蚕別1) 小井土章夫(蚕別6) 矢口徹(学蚕1) 宮入一雄(学化1)
14. 龍川支会
4,500円 市瀬武寿(蚕21)
3,500円 神崎聖徳(蚕27)
3,000円 羽生英尚(糸30)
1,500円 堀内隆吉(紡26)
1,000円 清水悦雄(学系1) 清水一郎(学紡1)
15. 静岡支会
5,000円 佐藤良太郎(蚕2) 戸倉惣兵衛(蚕2) 紺村貢(蚕1) 斎藤正己(蚕3)
3,000円 渡辺正男(蚕20) 浅川茂樹(蚕22) 江間正夫(蚕31) 清水忠弘(化4)
- (化4)
2,000円 宮沢津多澄(蚕36) 塚本泰司(農2) 安倍房吉(蚕31)
1,500円 西村利三郎(学蚕3)
1,000円 北村安(学化2)
16. 岐阜支会
5,000円 祐成亮(蚕17) 上田和男(紡6) 間宮成吉(蚕7)
4,000円 福永雄三(紡17) 三宅静雄(蚕24)
3,500円 井上大(紡21)
3,000円 丹羽久幸(蚕31) 上垣内武彦(紡8)
2,000円 樋田久吉(蚕36)
1,500円 小林万千男(化9) 小林俊雄(学紡2) 清水岩山(学紡1)
1,000円 山浦正男(学蚕7) 荻原三郎(学蚕3) 星井安明(糸36) 筒井義弘(紡35) 日幡晴一(糸35) 丸山文蔵(学紡4) 久保田明久(学系2) 大屋正尚(化9)
17. 愛知支会
5,000円 鈴木英夫(蚕14) 向坂朋二(蚕16)
4,500円 小林派(蚕20)
4,000円 尾和博行(紡16)
3,500円 長屋治(紡20)
3,000円 吉野神吉(蚕4) 倉島紀富(紡22) 稲石佐一(蚕3) 藤森敏雄(紡24) 田村義隆(学化6) 辰野邦雄(学化1) 角田勝郎(糸20) 佐藤俊郎(糸26) 浅野俊治(学化4) 田島三喜夫(紡22) 松本博隆(糸25) 加藤隆正(紡21) 都築礼二(蚕3)
2,500円 大田保(紡26) 天野六彦(紡26) 今枝重明(紡24) 斎藤隆(紡25) 中島光夫(紡26) 林文彦(紡25)
小 計 678,300円
集 計 3,355,050円

特許・実用新案 出願・審判・訴訟代理
意匠・商標

浜 特 許 事 務 所

弁 理 士 浜 香 三

事務所 東京都千代田区麹町三丁目一番地
大野 晋 特 許 事 務 所 内
電話 (30) 1444 番

自 宅 むさしの市緑町 公園住宅7の302

編 集 後 記

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。昨年11月の総会に引きつづき帝人社長一行の来学講演会がありその一講演を巻頭にかかげることが出来ました。尚ほ養会があり学部発展将来への話題も出て来ました。

記念事業募金は快速調に進んでいますがこの面でもこれに歩をあわせて御支援下さるよう御願致します。

編集理事 田口 亮平 白井 美明
編集部員 三石 賢 藤原 昭
矢彦 沢清亮 一之瀬 玉興
降旗 剛寛 白井 要範